

74新破天荒



謹賀新年

令和五年卯年が明けました。七十四回生の皆さん、保護者の皆様、明けましておめでとうございませう。本年は、中心学年として姫路南高校を引っ張る存在となります。

ありきたりですが、「一年の計は元且にあり」です。自分に対しての決意、自分の想いに対して嘘がないよう、新たな一年をスタートさせませう。

生徒の皆さんには十一月に行った進路調べの表面コピーを、二学期終業式前後に担任から渡されたと思います。勿論、自分が書いたことの確認をしても構いません。勿論、自分から渡されたらいいことありますが、それ以上に家庭で自分の将来の夢に対して、保護者から良きアドバイスを頂いたり、この先で心が折れそうになったりした時に応援してもらえる材料になればと、保護者の方にも目にしてもらえるように渡して頂きました。必ず保護者の目に触れるようにしてください。

保護者の皆様へ

二学期終わりに、学校評価アンケートに関しての回答を依頼しました。年の瀬を前にお忙しい時期にも拘わらず、回答を頂きありがとうございます。概ね、本校の教育活動にご理解を頂いて有り難い限りです。それらの回答に甘えることなく、生徒の姿を思い浮かべて、これからは生徒とともに成長の歩みを進めていきたいと思ひます。

また、極々少数の辛辣な叱咤激励のご意見も学年としては有り難いことで、きちんと耳を傾けます。与えられた時間の中でご理解、ご協力が得られるよう努力し、改善するべきは改善に務めていきます。今後とも、本校の教育活動に対して、応援・支援を頂けますように、また、お子様の成長・可能性を見守って頂けますよう、よろしくお願ひいたします。



学年の先生から

前 心 信
健 育 一 継

様々なことを『育』む一年に
そのためには『健』やかで
苦しくても『前』を向いて
経験を『引き継ぎ』ながら
揺るぎない『芯』の強さで
自分の心を『信』じ抜いて
七十四回生が『一』致団結

荒内 秀明
井上 三帆
押切 孝雄
渡会 雄士
名村 香織
寺脇 響彦
大谷 睦美

して、本当の自分の可能性に気付くことができるように、二〇〇名それぞれが自分の歩くべき道を育む一年でありますように。

卯年 睦月の予定

- 十日(火) 始業式
課題考査
- 十一日(水) 課題考査
(午前中で放課)
- 十二日(木) 進路希望調査
(時間割は課題一覧で確認)
- 十四日(土)～十五日(日) 大学入試共通テスト
(二年後はみんなの番だ！)
- 十六日(月)～三年午前中授業
- 十七日(火) 教育相談
- 二十日(金) 総合学力テスト

如月の予定

- 一日(水) 教育相談
- 十一日(土) 建国記念日
- 十四日(火) 特色選抜入試準備
- 十五日(水) 特色選抜入試
- 二十日(月) 特色選抜入試合格発表
- 二十一日(火) 学年末考査第一日目
- 二十二日(水) 学年末考査第二日目
- 二十三日(木) 学年末考査第三日目
- (注意) 天皇誕生日の代休は三月に
- 二十四日(金) 学年末考査第四日目
- 卒業式準備・大掃除
- 二十七日(月) 学年末考査最終日・卒業式予行
- 二十八日(火) 卒業式

散歩道74 クラスコード 5luczkw
Start 23 → Nov +3 (26)
→ Dec +10 (36) Now 38

年末の七十四回生の活躍

二学期終業後に届いた部活動活躍のニュースです。若い力の経験は貴重です。今回は、本人達に大会の報告を依頼する暇がなかったので、結果の報告を先にします。

女子バレーボール部

後期西播総合体育大会

兼 新人大会西播予選

(十二月二十五日(日)～二十七日(火))

第一位 県大会出場
優秀選手 大橋 萌花(一年五組)

二十六・二十七日に本校会場で行われた試合を、見学に行きました。残念ながら、本校の試合を観ることは叶いませんでしたが、補助員として競技運営に携わっている本校部員や、次の試合の準備をしている本校チームの様子は目にする事ができました。加えて、尼ヶ塚先生や他校と一緒に仕事をさせて頂いた先生方とも歓談することができ、私にとって楽しい時間を共有させて頂きました。

まずは、バレーボール部の皆さんおめでとう。県大会でも活躍を期待しています。

空手道部

第四十二回近畿高等学校空手道大会

(十二月二十五日(日)～二十七日(火))

男女とも団体が健闘しました。

出場権を得ること、経験から次への想いや課題を掴むことができたと思います。期待しています。

今月の。。。。の勧め

五月	「無駄」
六月	「諦めない」
七月	「捨てる」
一学期末	「チャレンジ」
九月	「さかのぼる」
十月	「テレビ」
十一月	「大空間」
十二月	「無」
二学期末	「こだわり」
一月	「信念」

一月二日に、二つの同窓会に参加しました。一つは生徒の立場として参加した、自分の高校の同窓会をお昼に、もう一つは教師の立場として招かれた、勤務した高校の同窓会を夕方に参加しました。

お昼は五十五歳の高校生の集まりとなりましたが、大半が七十歳を超えられた恩師から受ける久しぶりのお言葉に、揺るぎない信念のもと、今なお私達にその信念を矜持して下さろうとする、恩師への感謝を感じずにはいられませんでした。

同級生との会話は、男女を問わず無邪気なものでしたが、今置かれている社会的立場は違っても、私達の会話の端々に、自分たちが育ててもらった信念を、次の世代にどう伝えるかというテーマが奥底にありました。残り数年とは言え、教育の立場に携わる、私達の果たすべき責任を痛感しました。

立場が変わった夕方の同窓会では、卒業生達から数多くの勇気をもたらすことができ、今後も迷うことなく、残された教師生活の中で持っている「信念」をやり抜くことを誓った時間でした。



さあ皆さん。自分の目指すものに対して、信念を持って努力をしてみませんか。過去の高校生である先輩方の一言は、大きな根拠に基づいて語られるものです。信じるか信じないか、行動するか行動しないかは皆さん次第です。

途中でやめれば失敗と呼ぶ

成功するまでやれば成功で終わる

「何故そう思ったか？」それは、強弱の差はありますが、「あのとき」の「この意味」が「分かった」、「分かるよう」になった、こう「話した」という話を沢山もらえたことであったり、「これ」が自分には「ターニングポイント」となったと、嬉しそうに数グループが話してくれたり、「五年後をまた楽しみにしておいてください」という言葉を幾つももらえたことでした。

「やって良かった」、「信念を持ってやり続けてきて良かった」、五年後にもそんな話ができるように、「これからもやっていこう」、卒業生達から大きなお年玉をもらうことができたのかと思えました。

ある人が言っていました。

年賀状の文化

世の中で虚礼廃止が叫ばれて、随分になります。考え方は人の数だけありますが、私は自分にとっての通知表と考えています。

世の中は恐ろしいほど便利になった分、自らの手、自らの頭を経由する必要がなく、年賀の挨拶のアイテムを一つの商売となってしまう所があります。その結果、我が娘曰く(そのくせ、自分は一枚も出すことはないですが)『カス』と呼ぶ、表裏ともすべて印刷、名刺交換のような年賀状も増えた結果、

「虚礼」

となってしまうと思います。

ただ、私は先述に同窓会に参加していた卒業生や一年ごとの交換日記ならぬ、交換年記を楽しむことができた三が日を、今年も味わうことができました。

一見無駄と思えることも、捨てたものではないですよ。押しつけはいけません。

お知らせ

三学期早々に、修学旅行についての報告をさせて頂きます。まずは一報まで。

それでは改めて、七十四回生に関わり頂くすべての皆さん、

本年もよろしくお願ひ申し上げます。